論　文

異領域のくみあわせを表す「動詞＋“上”」と客体との関係について

高橋弥守彦

On the Relationship between the Collocation 「*verb* + “*shang*”」 and its Object

Yasuhiko TAKAHASHI

内容提要

移动动词有 3 类：动作移动动词、位置移动动词和趋向移动动词。名词可分为 4 种生命体和 6 种非生命体。位置移动动词“上”可与不同种类的名词结合构成短语。

位置移动动词“上”表示从下至上的角度性移动，其对象为角度性名词“楼梯”。将“上楼梯”这一短语作为基本的组合，从短语论“短语意义”和“结构类型”的观点出发，可将“上＋空间词”这一空间领域的组合分为 6 种结合体。

以表示人的移动“上”与空间词的结合体为基础，我们可将人的移动图示化，并转换到其他领域。在“上＋空间词”前加上动作移动动词则为“动作移动动词＋上＋空间词”，这一组合可分为 12 种结合体。

本文对“动作移动动词＋上＋客体”进行分类，探讨其中的客体可与哪些领域的名词相结合，并阐明其可能性。

キーワード：有様（移動）の動詞　位置移動の動詞　客体　転換　移行　類縁

目次

0. はじめに
1. 位置移動の動詞“上”と客体とのくみあわせ
2. “动作（移动）动词＋上”と客体とのくみあわせ
3. おわりに

0. はじめに

移動動詞は、その有する意味から「有様（移動の）動詞」“走、跑、飞…”・「位置移動の動詞」“上、下、进…”・「趨向移動の動詞」“来、去”の3類[1]に分けられる。“上”はこの3類のうちの位置移動の動詞に属する。その対象となる名詞[2]は生命体4類「ヒト（動物も含む）、カラダ、植物（全体・部分）、組織」と非生命体6類「モノ、コト、心力（理性・感情・感覚など）、自然力（水・火・風・雷・音など）、空間、時間」に分けられる。

位置移動の動詞“上”は、一般に主体の位置移動を表すので、位置移動と関係のある空間詞とのくみあわせが基本となる。これを「空間領域のくみあわせ」と言う。“上”はさらに領域の異なる各種類の名詞とくみあわさり、領域の転換により“上”と一部の名詞に意味変化が起きる。これを「転換」と言う。位置移動の動詞“上”と空間詞とのくみあわせとで作る連語は、「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」とにより、下記に挙げる6類の空間領域のむすびつきが作れる。むすびつきの違いにより、位置移動の動詞“上”と客体となる一部の名詞にも意味変化が起きる。これを「移行」と言う。さらに同一項目のむすびつきの内部でも、その対象となる名詞の形体的な特質により意味変化が起こる。これを「類縁」と言う。単語の意味変化は、主としてこの3類[3]により起こる。

本稿では「有様（移動の）動詞＋“上”＋客体」のうちの「有様（移動の）動詞＋“上”」が空間詞とそれ以外のどの領域の名詞とくみあわさるのかを分類し、なぜそれが可能なのかを明らかにする。

1. 位置移動の動詞“上”と客体とのくみあわせ

位置移動の動詞“上”と客体とのくみあわせは、客体の種類により空間領域のくみあわせや時間領域のくみあわせなどを作ることができる。“上”の基本義は［(下から上に）あがる］位置移動の意味なので、その対象は空間詞である。これを空間領域のくみあわせという。このくみあわせが基本となり、他領域のくみあわせへの転換が可能となる。

1.1.「“上”＋空間詞」で作る空間領域のくみあわせ

鈴木康之（2011：3）の提唱する連語論では、連語は必ず具体的な意味を表す2つ以上の単語が含まれるくみあわせであり、単語より具体的な概念を表すひとまとまりである。連語を分類する鈴木康之（2011：5）の基準「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」とにより、「位置移動の動詞“上”＋空間詞」を分類すると、筆者の調査によれば、むすびつきの表す意味から6類に分けられ、［表1］と［表2］[4]にまとめられる。

---

1) 高橋弥守彦（2003：50）に移動動詞の体系を明らかにしている。
2) 高橋弥守彦（2015：4）に名詞の分類を明らかにしている。
3) 高橋弥守彦（2009b：334～335）で単語の意味変化を明らかにしている。
4) 高橋弥守彦（2007）に例文と［表1］［表2］あり。

(1) 她上楼的步子是沉重的，像灌了铅一样。(『講読』④-65)
階段をのぼる彼女の足取りは、あたかも足に鉛でも注ぎ込まれたかのように重かった。(同上④-70)

(2) 日上中天时，他的孩子又开始哭起来。(『人民』97-3-87)
太陽が中天に上る頃になると、またまた赤ん坊の泣き声が聞こえてきたが、……(同上)

(3) 下批你再要不到，我就上医院作手术，这辈子不生了！(『人民』89-1-102)
この次もらえなかったら、すぐ病院へ行って手術しますからね。一生、子供は生みません！(同上)

(4) 洁也回敬丈夫一个甜笑，目送丈夫上了火车。(『人民』96-1-87)
潔も甘い笑顔を返し、列車に乗り込む夫を見送った。(同上)

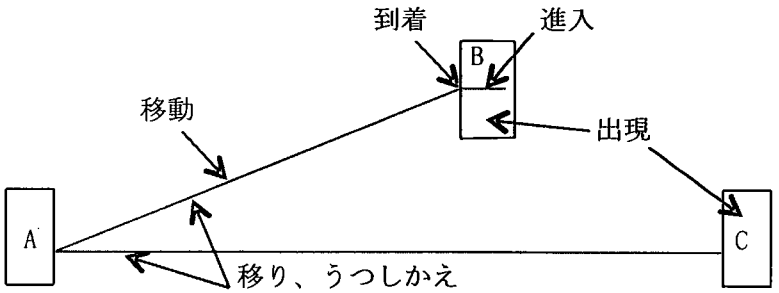
(5) 老张的事迹上了报了。(『八百詞』p.302)
張さんの行った立派な行為が新聞に載った。(同上)

(6) “可不是嘛，我总是觉得有点不对头。这孩子，也不吭声。走，上我家吃饺子。”说完，她像赶小羊羔似地要胖胖上六楼。(『人民』90-4-98)
「やっぱりそうだったのね。おかしいなと思ってたの。この子ったら、なんにも言わないんだから。さあ、うちへ来て餃子をおあがり」こういうと、蒋おばさんは子羊でも追うように胖胖を六階へせきたてた。(『人民』90-4-99)

[表1]「“上”＋客体（空間詞）」の作るむすびつき

i．空間的な移動のむすびつき（例1：空間での主体の移動）
ii．空間的な到着のむすびつき（例2：空間への主体の到着）
iii．空間的な移りのむすびつき（例3：空間から空間への主体の移り）
iv．空間的な進入のむすびつき（例4：空間への主体の進入）
v．空間的な出現のむすびつき（例5：空間での主体の出現）
vi．空間的なうつしかえのむすびつき（例6：空間での主体による客体のうつしかえ）

[表2]「位置移動の動詞“上”＋空間詞」で作る6類のむすびつき



空間領域のくみあわせ「“上”＋空間詞」で作る連語は、連語論的な意味によるむすびつきの違いにより、動詞“上”が意味変化するばかりでなく一部の名詞も意味変化する場合がある。名詞の意味変化について、本稿では、単語レベルで空間を表す例（3）の場所名詞“中天”などを基本空間詞と言い、連語レベルで空間を表す例（2）の組織名詞“医院”[5]や例（1）（4）（5）のモノ名詞“楼、火车、报”などを派生空間詞と言う。

単語は単語だけでは意味変化が起こらず、ひとまとまり性のある連語によって各単語に意味変化が起きる。連語「位置移動の動詞“上”＋空間詞」で作る6類のむすびつきのうち、“上”は例（1）の「空間的な移動のむすびつき」の中で、A点からB点までの空間における主体の移動を表す。例（2）の「空間的な移りのむすびつき」では、A点からB点への主体の移りを表す。例（3）の「空間的な到着のむすびつき」では、主体がB点に到着することを表す。例（4）の「空間的な進入のむすびつき」では、主体がB点の枠内に入ることを表す。例（5）の「空間的な出現のむすびつき」では主体がB点に現れることを表す。例（6）の「空間的なうつしかえのむすびつき」では主体による客体（対象）のうつしかえを表す。

1.2.「“上”＋空間詞以外の客体」で作るくみあわせ

「“上”＋客体」の客体は空間領域のくみあわせ以外に、時間・モノ・コト・ヒトの各くみあわせがあるが、これらのくみあわせは［表2］が基本[6]となっている。［表2］は空間領域のくみあわせを連語論的な意味と構造的なタイプとにより分析した6類のむすびつきを表している。

2.“动作（移动）动词＋上”と客体との関係

「“上”＋客体」の前に有様（移動の）動詞を用いる“动作（移动）动词＋上”と客体との関係も、客体がどの種類の名詞に属するかによって各領域のくみあわせ[7]を作る。“动作（移动）动词＋上”のうち、“上”は位置移動の動詞なので、一般には場所を表す客体とくみあわさる。これを「空間領域のくみあわせ」と言う。筆者の調査によれば、空間領域のくみあわせは「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」とにより、以下に挙げる12類のむすびつきに分かれる。

---

5) 朱德熙（1995：47～48）は介詞“在／到”の後に用いる名詞を場所名詞としている。そのため、朱德熙は「トコロ」とみなし得る機関の一つとして“医院”を場所名詞としている。当時にあってはまだ組織名詞という概念が確立されていなかったので場所名詞の中に入れたのであろう。組織名詞“医院”はくみあわせにより、以下の3類に分かれる。

我们去医院看病。（組織名詞）［私たちは診察を受けに病院に行きましょう。］
他们正在盖医院。（モノ名詞）［彼らは病院を造っているところです。］
我们在医院见面吧。（場所名詞）［私たちは病院で会いましょう。］

6) 高橋弥守彦（2007）に［表2］あり。

7) 刘月华（1998：2～30）は、言語事実から“上”などの趨向補語は“趋向意义”“结果意义”“状态意义”を表すとし、梁银峰（2007：2）は、言語事実から趨向補語は“趋向意义”“结果意义”“时体意义”を表すとしている。しかし、［表1］からも分かるように、「位置移動の動詞“上”＋空間詞」が移り動き（例1）と結果（例5）を表しているのであり、「動詞＋趨向補語“上”＋客体」のうちの趨向補語“上”などが移動や結果を表しているのではない。これらは連語全体で移り動きなどの意味を表していると考えるのが妥当であろう。

2.1.「“动作（移动）动词＋上”＋空間詞」の作る各むすびつき

中国語では、上掲の連語「“上”＋空間詞」で作る空間領域のくみあわせは連語論的な観点から6類のむすびつきを作り、むすびつきの違いから“上”は意味変化し、空間詞も基本空間詞と派生空間詞とに大別される。「有様（移動の）動詞＋“上”＋空間詞」で作る連語は、連語論的な観点から以下の12類のむすびつきに大別できる。ここには有様（移動の）動詞の果す役割の大きさが反映されている。なお、むすびつきの違いにより、位置移動の動詞“上”は異なる意味を表し、その客体（対象）となる名詞も意味変化を起こす場合がある。

①「空間的な移動のむすびつき」の中で、“上”は基本義である「下から上への移動義」を表す。

(7) 阳光又爬上崖畔，瞎老汉和“花脑”坐在崖顶上。(《插队的故事》)

日差しが崖を這い上がり、崖の上には盲のじいさんと「花脳」が腰をおろしていた。(『遥かなる大地』)

②「空間的な到着のむすびつき」の中で、“上”は派生義である「到着義」を表す。

(8) 有一天瞎老汉又走上那土崖。(《插队的故事》)

ある日じいさんはまた例の崖に登った。(『遥かなる大地』)

③「空間的な進入のむすびつき」の中で、“上”は派生義である「進入義」を表す。

(9) 早晨八点三十分，倪藻他们在B市的机场登上不列颠航空公司的飞机。(《活变动人形》)

朝8時半、一行はB市の空港で英国航空機に搭乗した。(『応報』)

④「空間的な出現のむすびつき」の中で、“上”は派生義である「出現義」を表す。

(10) 余占鳌看着我父亲的端正头颅，看着我奶奶的花容月貌，不知有多少往事涌上心头。(《红高粱》)

形よい父の頭と美しい祖母の顔を見ている余占鰲の心に、過去の出来事がつぎつぎに湧きあがった。(『赤い高粱』)

⑤「立ち居のむすびつき」の中で、“上”は派生義である「到着義」を表す。

(11) 他寻思，给娃买个彩电什么的。怎奈那彩电由一千多元一下子猛涨到三千，像坐上直升飞机。(『人民』90-1-98)

息子にカラーテレビやらなにやかや買ってやらねばと思案はするが、なにしろそういうものは、まるでヘリコプター式に千元代のものがあっというまに三千元代に急騰している。(『人民』90-1-99)

⑥「付着のむすびつき」の中で、“上”は派生義である「到着義」を表す。

(12) 裙衫贴上了她的脊背。(『人民』89-12-101)

ワンピースが彼女の背中にはりつく。(同上)

⑦「〈ひと〉のうつしかえのむすびつき」の中で、“上”は派生義である「うつしかえ義」を表す。

(13) 我把她拖上船，自己不想再上去了，反正衣服湿了，跟在船后面游吧。(《人啊、人》)

おれは彼女を船に押し上げたあと、自分はもうあがる気になれなかった。どうせ濡れネズミだ。いっそ船について泳いでいこう。(『ああ、人間よ』)

⑧「〈もの〉のうつしかえのむすびつき」の中で、“上”は派生義である「うつしかえ義」を表す。

(14) 把弹药送上了前线。(『八百詞』p.304)

弾薬を前線まで届けた。(同上)

⑨「とりつけのむすびつき」の中で、“上”は派生義である「進入義」を表す。

(15) 中国登山队把五星红旗插上了珠穆朗玛峰顶峰。(『八百詞』p.304)

中国の登山隊は五星紅旗をチョモランマ山の頂上に立てた。(同上)

⑩「社会的な移動のむすびつき」の中で、“上”は派生義である「進入義」を表す。

(16) 当初你要是用了这些稿子，我恐怕早已走上另一条道。岂能有今天？(『人民』93-8-111)

もしあのとき君がこの原稿を採用してくれてたら、ぼくはそっちの道を歩いてただろうからな、今のぼくもなかったはずだ。(同上)

⑪「社会的な移りのむすびつき」の中で、“上”は派生義である「移り義」を表す。

(17) 直到去年调动工作，住室略有改善，住上了单元房。(『人民』88-2-98)

去年転職して、ようやく住まいはいくらか良くなった。アパートに住めるようになったのである。(同上)

⑫「社会的な進入のむすびつき」の中で、“上”は派生義である「進入義」を表す。

(18) 于是，他们便各自踏上了自己心中的理想之路：敏在城里开了家小餐馆，取了个挺气派也挺富于诗意的名字——“玫瑰酒家”。(『人民』95-4-99)

こうして彼らは、それぞれの心中に描いていた理想の道に入って行った。敏は町で小さな食堂を始めた。店には、格調高く詩情豊かな「ばらの家」という名前をつけた。(同上、95-4-98)

「有様（移動の）動詞＋位置移動の動詞“上”＋客体（空間詞）」の中で、有様（移動の）動詞は運動の方式などを表し、“上”は各むすびつきの中で基本義「移動義」と5派生義「移り義、到着義、進入義、出現義、うつしかえ義」を表す。これらの基本義と5派生義の用法はすでに「位置移動の動詞“上”＋客体（空間詞）」(1～6）の中にある。このことから、両構造は深い関係にあり「“上”＋空間詞」が基本となっていると言える。

上掲の例文から見れば、「有様（移動の）動詞＋位置移動の動詞“上”」の客体は、単語レベルでは場所名詞とモノ名詞の場合が多い。場所名詞ではなくモノ名詞などであっても、空間領域のくみあわせを表す連語を連語論的な意味によって分類する上掲の空間的な各むすびつきのなかでは場所を表す。ここには“上”が意味変化するばかりでなく、一部の名詞にも意味変化することが現れ、連語のなかで果たす各品詞の重要性が出ている。「有様（移動の）動詞＋位置移動の動詞“上”＋名詞（客体）」で作る連語も、各むすびつきを表す基本的な意味であれば、「各むすびつきを示す基本訳」であり、派生的な意味であれば「各むすびつきを示せる応用訳」である。

以上の「有様（移動の）動詞＋位置移動の動詞“上”」とその客体にみられる基本義と派生義との関係、および連語に見られる基本訳と応用訳との関係から、「有様（移動の）動詞＋“上”」がどのような形状の空間詞とくみあわさるかによって、連語論的な意味を表す「むすびつき」が作られ、構造的なタイプで示すむすびつきの違いによって、派生義が生じるメカニズムを明らかにした。な

お、「有様（移動の）動詞＋“上”」や「モノ名詞＋方位詞」とそれに対応する日本語訳を比較対照すると、中国語の表現は分析的であり、日本語は総合的であると言える。

『八百詞』をはじめ多くの文法書や参考書では、言語事実の表す意味から、一般には「有様（移動の）動詞＋“上”＋名詞」の中の“上”を趨向動詞と言い、いくつかの用法に分けている。この説は広く行なわれているが、これは筆者の説と異なる。筆者は「“上”＋空間詞」で作る構造を4類[8]に分け、どの構造に用いられる“上”も位置移動の動詞と名づけている。

2.2.「動詞＋“上”＋空間詞以外の客体」で作る各くみあわせ

空間領域のくみあわせ[9]を作る「有様（移動の）動詞＋位置移動の動詞“上”＋空間詞」は、連語論的な意味と構造的なタイプとの違いにより、上掲に示す12類のむすびつきが作れる。以下では「有様（移動の）動詞＋位置移動の動詞“上”＋客体（空間領域以外）」のくみあわせを分析する。

2.2.1. 時間領域のくみあわせ

時間領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体が時間詞の場合である。本領域のくみあわせは若干あるものの決して多いとは言えない。

(19) “准备考了，偏赶上考试那几天，病倒了。”（『講読』⑥-130）

「受験するつもりでいたけど、あいにく入試の数日間病気で寝こんじゃたの」（同上⑥-134）

(20) 今天平平整一岁，正赶上星期天。（『人民』90-7-98）

きょう、平平くんは満一歳。ちょうど日曜日です。（同上）

例（19）の時間領域のくみあわせ“赶上考试那几天”の“考试那几天”は時段を表し、例（20）の“赶上星期天”の“星期天”は時点を表す。これは「時段」を表す前者が［表3］の「空間的な移動のむすびつき」、「時点」を表す後者が［表3］の「空間的な到着のむすびつき」を基本とする領域の転換により起こる言語現象である。この点から言えば、やはり「“上”＋空間詞」が基本となっていると言える。なお、“赶上”は二つの語素“赶＋上”からできている単語である。

2.2.2. モノ領域のくみあわせ

モノ領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体がモノの場合である。本領域のくみあわせは相当数ある。連語論的な意味から、モノ領域のくみあわせは、以下に挙げる3類のむすびつきに大別できる。

①「空間的な到着のむすびつき」を意味する連語

空間領域の中の一つ「空間的な到着のむすびつき」は、ある空間に主体が到着することを意味する。客体がモノであるモノ領域のくみあわせの一つに、下記に挙げる例文に見られるように、客体が単語レベルでみればモノだが、連語レベルでみれば空間を表す場合がある。これらのモノ名詞は連語レベルの構造の中で空間を表しているので、派生空間詞と看做せる。

---

8) 高橋弥守彦（2007）に「“上”＋空間詞」で作る4類の構造あり。4類の構造は「“上”＋空間詞」が基本構造だとしている。

9) 高橋弥守彦（2008c）で「動詞＋“上”＋空間詞」で作る空間領域のくみあわせについて言及している。

(21) 小伙子在她身后跨上车子，边说边飞快地骑跑了。(『講読』④-47)

彼女の後ろにいた若者は自転車に飛び乗り、そう言いながら急いで自転車を走らせていった。(同上④-54)

(22) 白局长跟同事们打了一下招呼："我得出去一趟，你们别紧张，没什么了不起的事！"他骑上自行车，直奔正骨医院。(『人民』88-3-92)

白局長は一同に言った。「わたしは行ってくる。きみたちは心配しないでいい。たいしたことはないようだ」彼は自転車を走らせて整骨病院へ急いだ。(同上、88-3-92～93)

例（21）（22）も客体はともにモノ"车子、自行车"だが、これらのモノは連語"跨上车子、骑上自行车"の中で、モノとして扱われているのではなく空間として扱われ、"上"は到着義を表しているので、これらはいずれも空間的な到着のむすびつきを意味する派生空間詞と看做せる。例（19）の"跨上车子"を［自転車に飛び乗り］と訳す日本語訳は適訳である。例（20）の"骑上自行车"は使役義［自転車を走らせて］と訳されているが、到着を意味する［自転車に乗り］と訳す方が妥当であろう。

② 「空間的な到着のむすびつき」からの派生義を意味する連語

空間領域の中の一つ「空間的な到着のむすびつき」は、ある空間に主体が到着することである。客体がモノであるモノ領域のくみあわせの一つにヒトの力により、モノがある空間に到着する現実がある。到着体が主体から客体に替わっているが、ここには到着義が表れている。

(23) 我也关上了房门。(『人民』94-6-93)

私もドアを閉めた。(同上)

(24) 警卫员小李用劲扯扯大衣领，透过木板岗楼的了望孔，瞅了一眼渐渐暗下来的天空，随手合上电闸。(『講読』②-29～30)

警備員の小李は力いっぱい外套のえりをひっぱり、板ばりの望楼の見張り窓を通して、次第に暗くなってゆく空を見やると、ついでにスイッチを入れた。(同上②-38)

例（23）の"关上了房门"と（24）の"合上电闸"は、ヒトの力によって"房门"を閉め、"电闸"を入れることにより、ドアやスイッチがある着点[10]まで達するので到着義と看做せる。

③ 「空間的な進入のむすびつき」を意味する連語

「空間的な進入のむすびつき」は、ある空間に主体が進入することである。客体がモノであるモノ領域のくみあわせの一つに客体が単語レベルでみればモノであるが、連語レベルでみれば空間を表す場合がある。これらのモノ名詞は連語レベルで空間を表しているので、派生空間詞と看做せる。

(25) 父亲哼着小曲踏上了远去的列车。临行前他说："这辈子恐怕再也喝不上恁好的酒喽！"(『人民』96-9-87)

翌日親父は鼻歌まじりに汽車に乗り、発車を待ちながら言った。「あんな旨い酒、もう死ぬまで飲めないだろうなあ」(同上)

10) 丸尾誠（2014：1）では多くの研究者の意見を参考にして、"关上窗户［窓を閉める］、贴上邮票［切手を貼る］"の"上"を方向補語とし、「付着義」を表す派生義としている。

(26) 当他的脚一踏上客厅的门槛，屋里先是猛然一静，坐着的人刷地站了起来，……（『人民』89-7-102）

その人が客間に一歩入ると、室内がさっと静まり、すわっていた者は立ち上がった。……（同上）

(27) 一抹夕阳胡乱地涂在老犍身上，老犍迈着深沉而苦涉的步子踏上小石桥。（『人民』94-7-93）

ひとすじの夕日が老いた牛のからだをまだらに染めていた。牛は、重い、苦しげな足どりで小さな石橋を渡った。（同上）

例（25）（26）（27）は客体がともにモノ“列车、门槛、小石桥”だが、これらのモノは連語“踏上了远去的列车”“一踏上客厅的门槛”“踏上小石桥”の中で空間を表している。これらは空間的な進入のむすびつきを意味する連語なので、例（25）の［汽車に乗り］は［遠くへ行く汽車に乗り］と訳す方が適訳だろう（26）の［客間に一歩入る］の日本語訳は妥当であろう。例（27）は通過義［小さな石橋を渡った］で訳されているが、［小さな石橋に足を踏み入れた］と訳すほうが適訳となるであろう。

④「のみくいのむすびつき」を意味する連語

客体がモノであるモノ領域のくみあわせの一つに「のみくいのむすびつき」[11]がある。このむすびつきは主体が客体としての食べ物や飲み物を口から体内にとりいれることであるが、モノをとりいれる空間が文中に現れないのが特徴である。この意味では再帰的な動詞と似ているところがある。

(28) 姥姥每天都能吃上两个鸡蛋羹。（『人民』91-1-96）

そのおかげで、祖母は毎日茶碗むしを二はい食べることができた。（同上、91-1-97）

連語論的な観点から例（28）ののみくいのむすびつき“吃上两个鸡蛋羹”［茶碗蒸しを2はい食べる］は、ヒトの力により、“上”はのみくいの動詞“吃”が客体“两个鸡蛋羹”に到着していることを表している。この点から、本むすびつきは空間的な到着のむすびつきを基本にしていると言える。

⑤「とりつけのむすびつき」を意味する連語

モノ領域のくみあわせの一つに、ヒトの力によりモノをある空間にとりつける現実がある。これを「とりつけのむすびつき」という。このむすびつきは、ある空間に主体がモノをとりつけることである。これは「空間的な到着のむすびつき」の意味する到着義からの派生義と看做せるであろう。

(29) 于是，老板放下一万块钱，捞起灵鳖，绑上了摩托车架。（『人民』94-11-101）

こうしてだんなは一万元払い、スッポンをかめから出してオートバイにしばりつけた。（同上）

(30) 我们不好违背他的意愿，只好交了款，把地毯卷起来，抬上汽车回学校了。（『人民』95-1-101）

先生の意志に逆らうわけにはゆかない。僕たちはただ、金を払い、カーペットを巻き、車に積んで学校へ帰るしかなかった。（同上、95-1-100）

(31) 安上个铁家伙。吱喽这么一车，便什么都照进去了。（『講読』①-89～90）

鉄でできたやつを据えてな、こうギィとまわすと、何もかもうつっちゃうんだ。（同上①-97）

[11] 鈴木康之（2011：19）では「のみくいのむすびつき」についての連語論的な意味と構造的なタイプおよび例が挙げられている。

(32) 喝了酒，揣上二十块现大洋，陈小手告辞了："得罪！得罪！"（『講読』②-100）

酒を飲み、20元の銀貨をしまうと、陳小手はいとまごいをした。「これにて失礼させていただきます」（同上②-105）

とりつけのむすびつきは、とりつけるものと空間およびとりつけを意味する動詞の3単語によってひとまとまりの連語を作る。しかし、中国語では往々にしてとりつけるものが、とりつけのむすびつきを意味する連語の前に用いられる。たとえば、例（29）の"绑上了摩托车架"は、とりつけを意味する動詞連語"绑上"と派生空間詞"摩托车架"の両者でとりつけのむすびつきの意味を表し、とりつけるもの"灵鳖"は、それらで作る連語の前に現れている。例（30）も同様である。

例（31）（32）は動詞連語"安上、揣上"ととりつけるモノ"铁家伙、二十块现大洋"の両者だけでとりつけのむすびつき"安上铁家伙"［鉄でできたやつを据えて］、"揣上二十块现大洋"［20元の銀貨をしまう］の意味を表し、文中にはモノをとりつける空間が表れていない。これらはどこに取り付けるかが明白な場合である。

⑥「再帰的なとりつけのむすびつき」を意味する連語

モノ領域のくみあわせの一つに、ヒトの力によりモノをある空間にとりつける現実がある。「再帰的なとりつけのむすびつき」も、ある空間に主体がモノをとりつけることである。しかし、モノをとりつける空間は主体の一部であり、一般にモノをとりつける空間はよく分かり切っているので、空間詞は文中に現れないが、これは「空間的な到着のむすびつき」の意味する到着義からの派生義と看做せるであろう。

(33) 她本能地感到时间不早了，抖抖索索地拉亮电灯，蹑手蹑脚地套上鞋子，轻轻地下了床。（『講読』④-109）

……、本能的に時間が遅いことを感じた。注意深くヒモをひいて電灯をつけ、そっと靴をはき、音をたてぬようにベッドから下りた。（同上④-117）

(34) 这驴根本不能拉脚，套上车不沿马路向前走，只会就地转圈。（『人民』91-12-97）

こいつは、人は乗せられんし、物も運べん。装具をつけりゃ、道をまっすぐ進まんのだ、ぐるぐる回るばっかしでな。（同上）

例（33）（34）は「再帰的なとりつけのむすびつき」[12] なので、文中に空間が表れない。たとえば、例（33）の"套上鞋子"［靴をはき］は靴をはく空間は、主体の足に決まっているので、文中に空間詞となる主体の足は現れない。（34）も同様である。

⑦「とりはずしのむすびつき」を意味する連語

モノ領域のくみあわせの一つに、ヒトの力によりモノをある空間からとりはずす現実がある。これを「とりはずしのむすびつき」という。これは、ある空間から主体がモノをとりはずすことである。これはとりはずす対象が主体でなく客体に替わっているが、「空間的な移りのむすびつき」の意

[12] 鈴木康之（2011：17）では「再帰的なとりつけのむすびつき」についての連語論的な意味と構造的なタイプと例が挙げられ、「とりつけるところが自分自身のからだであるということがはっきりしていて、ふつうには、とりつけるところをしめす必要がなく、2単語の単語であらわされるのである。」と説明している。

味する主体がある場所を離れ目的地に行く移り義からの派生義と看做せるであろう。

(35) 你没事干了，怎么揭上墙上的广告了？（《汉语动词用法词典》p.203）

君はやることがなくなったからといって、どうして壁の広告をはがしたんだ。（筆者訳）

例（35）は主体“你”により客体“广告”が空間“墙上”からとりはずされる“揭上”［はがす］ことを意味している。なお、言語資料としての本用法はきわめて少ない。

⑧「再帰的なとりはずしのむすびつき」を意味する連語

モノ領域のくみあわせの一つに、ヒトの力によりモノをある空間からとりはずす現実がある。「再帰的なとりはずしのむすびつき」も、ある空間から主体がモノをとりはずすことである。しかし、モノをとりはずす空間は主体の一部であり、一般にモノをとりはずす空間はよく分かり切っているので、空間詞は文中に現れない。これは「空間的な移りのむすびつき」の意味する主体がある場所を離れ目的地に行く移り義からの派生義と看做せるであろう。

(36) 刚走了一会儿他就热得脱上衣服了。（《汉语动词用法词典》p.392）

ちょっと歩くと、彼は身体が熱くなってきたので服を脱いだ。（筆者訳）

例（36）は主体“他”により客体“衣服”が空間としての主体の一部（上体）からとりはずされる“脱上”［脱いだ］ことを意味しているが、客体がどこから外されるのかは分かり切っていることなので、空間詞は文中に現れない。なお、本用法もきわめて少ない。

2.2.3. コト領域のくみあわせ

コト領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体がコトの場合である。本領域のくみあわせも相当数ある。連語論的な意味から、コト領域のくみあわせは、以下に挙げる4類のむすびつきに大別できる。

①「空間的な移動のむすびつき」からの派生義

空間領域の中の一つ「空間的な移動のむすびつき」は、ある空間を主体が移動することである。客体がコトであるコト領域のくみあわせの一つに、ある種の力によりコトが移動する現実がある。移動体が主体から客体に替わっているが、ここには移動義が表れている。

(37) 没说上两句话，老隋就想起来了，眼前这个傻小子当时作为右派上报过，上面没有批。（『講読』③-18～19）

二言三言話しているうちに、隋さんは当時のことを思い出してくれた。目の前にいるこの間抜けは、あの頃右派として上司に報告したことがあるが、許可がおりなかった。（同上③-22）

例（37）の連語“没说上两句话”は主体の話［二言三言話しているうちに］と訳され、話の移動と看做せるので、「空間的な移動のむすびつき」が基本になっているのだろう。

②「空間的な到着のむすびつき」からの派生義

「空間的な到着のむすびつき」は、ある空間に主体が到着することである。コト領域のくみあわせの一つに、ある種の力によりコトがある空間に到着する現実がある。到着体が主体から客体に替わっているが、ここには到着義が表れている。

(38) 两个孩子都赶上了下乡运动，哥哥上了东北兵团，妹妹去了云南。（『人民』94-10-97）

二人の子供はともに下郷運動にぶつかり、兄は東北兵団へ、妹は雲南に行った。（同上、94-10-96）

(39) 星月居是这一带的第一家个体饭馆，大家爱上这儿来吃饭，买卖挺红火，吕星挣了不少钱，两年还上了贷款。（『人民』94-10-97）

星月居は、この辺の食堂では初めての個人経営で、みんながひいきにしてくれた。商売繁盛でたっぷりもうけ、呂星は二年で借金を返した。（同上、94-10-96）

(40) 在汪副局长稍稍流露出为了让女儿考上大学，希望请个老师辅导之后，翁思茂便一口应允了。（『講読』①-24）

それで、汪副局長が、娘の大学受験準備のためにひとり先生を招いて補習させたいという意向をちょっと漏らしただけで、翁思茂は即座に引き受けてしまった。（同上①-31）

例（38）（39）の連語“赶上了下乡运动”“还上了贷款”は、客体が何らかの力により、ある点に達している［下郷運動にぶつかり］［借金を返した］と考えられるので、「空間的な到着のむすびつき」が基本になっていると考えてよいだろう。例（40）の“考上大学”も同様に考えられるが、［大学受験準備］と訳されている。この訳では到着義が出ていないので、到着義を出すためには［大学合格］と訳すべきであろう。

③「空間的な進入のむすびつき」からの派生義

「空間的な進入のむすびつき」は、ある空間に主体が進入することである。コト領域のくみあわせの一つにヒトの力により、コトがある空間に進入する現実がある。ある空間に入る進入体は主体であり、ここには“上”で表す進入義が表れている。

(41) 惶恐不安地，她踏上了旅途。（『講読』⑤-114）

彼女は不安を抱いて、旅路についた。（同上⑤-119）

例（41）の連語“踏上了旅途”は［旅路についた］と訳されている。これは主体がある路程に入ったと考えられるので、「空間的な進入のむすびつき」が基本になっていると考えてよいだろう。

④「とりつけのむすびつき」からの派生義

「とりつけのむすびつき」は、ある空間に主体がモノをとりつけることである。コト領域のくみあわせの一つにヒトの力により、コトをある空間にとりつける現実がある。

(42)“周主任，我们处的计划是否要打上‘急件’下发？”（『講読』②-74）

「周主任、うちの処の計画書は『緊急文書』のスタンプを押して発送しますか」（同上②-85）

(43) 我迎上去，她照例扑到我的怀里，在我脸上印上了一个问候。（『人民』89-5-99）

私が立って行くと、いつものとおり胸にとびこんできて、ただいまのあいさつを私の頬に。（同上）

例（42）（43）の連語“打上‘急件’”［『緊急文書』のスタンプを押して］、“印上了一个问候”［ただいまのあいさつを］の“上”は客体が何らかの力により、ある場所に達していることを意味していると考えられる。到着体は主体から客体に替わっているが、「空間的な到着のむすびつき」が基本になっていると考えてよいだろう。

2.2.4. ヒト領域のくみあわせ

ヒト領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体がヒトの場合である。本領域のくみあわせも相当数ある。連語論的な観点から、ヒト領域のくみあわせは以下に挙げる3類のむすびつきに大別できる。

① 「空間的な到着のむすびつき」からの派生義

「空間的な到着のむすびつき」は、ある空間に主体が到着することである。ヒト領域のくみあわせの一つに、ある種の力によりヒトが職業や身分などのある領域に到着する現実がある。到着体は主体であり、主体が客体で示すある領域に達しているので、ここには“上”で示す到着義が表れている。

(44) 那天，我遇上一个当演员的朋友，我们不错，他说最近要拍……（『講読』⑤-14）

この間、俳優をやっている友達と会ってね。仲がいいんだよ。奴が言うにはね、今度撮影するのは……（同上⑤-18）

(45) 陈小手出了天王寺，跨上马。（『講読』②-100）

陳小手は天王寺を出ると、馬に飛び乗った。（同上②-105）

例（44）の連語“遇上一个当演员的朋友”は［俳優をやっている友達と会ってね］と訳されている。これは主体が客体と接したと考えられるので、「空間的な到着のむすびつき」が基本になっていると考えてよいであろう。例（45）の“跨上马”の“马”はヒト名詞に入るが主体の乗る場所なので、「空間的な到着のむすびつき」となり、むすびつきのなかでヒト名詞“马”が空間を表していると考えられる。

② 「社会的な到着のむすびつき」を意味する連語

この連語のなかには、「空間的な到着のむすびつき」からの派生と考えられる以下の文に見られるような「社会的な到着のむすびつき」と言える連語もある。

(46) “我考上了他的研究生，今天才接到的通知。”她平静地说。（『講読』⑥-132）

「わたし、先生の研究生に応募して合格したの。きょう通知を受け取ったばかりよ」彼女は平静に言った。（同上⑥-135）

(47) 后来，他也当了工人，又当上了出租汽车司机。（『人民』88-7-100）

やがて洪生も労働者になり、それからまたタクシーの運転手になった。（同上、88-7-100～101）

(48) 一个二十二岁的小伙子，爱上了她——一个二十六岁的少妇。（『人民』88-12-104）

二十二になる青年が彼女を愛してしまった。それも、二十六歳の既婚の女性を。（同上）

例（46）（47）（48）の連語“考上了他的研究生”“当上了出租汽车司机”“爱上了她——一个二十六岁的少妇”は［先生の研究生に応募して合格した］［タクシーの運転手になった］［二十六歳の既婚の女性を愛してしまった］と訳されている。これらはいずれも主体がある領域に達しているので、「空間的な到着のむすびつき」が基本になっていると看做せる。

③ 「空間的な進入のむすびつき」からの派生義

「空間的な進入のむすびつき」は、ある空間に主体が進入することである。ヒト領域のくみあわせ

の一つにヒトの力により、ヒトがある空間に進入する現実がある。進入体が主体から客体に替わっているが、ここには進入義が表れている。

(49) 下车一个人，居然还能挤上两个人。(『講読』⑤-96)

降りたのは一人だが、なんと二人も割りこんできた。(同上⑤-107)

例（49）の連語“挤上两个人”は［二人も割り込んできた］と訳されている。これは客体がある空間に入ったと考えられる。空間への進入が主体から客体に替わっているが、「空間的な進入のむすびつき」が基本になっていると考えてよいであろう。

④「空間的な出現のむすびつき」を意味する連語

「空間的な出現のむすびつき」は、ある空間に主体が出現することである。ヒト領域のくみあわせの一つにヒトの力により、ヒトがある空間に出現する現実がある。出現体が主体から客体に替わっているが、ここには出現義が表れている。

(50) 换上了一对恋人。(『講読』⑤-24)

……、かわりに一組の恋人が座っていた。(同上⑤-28)

例（50）の連語“换上了一对恋人”は空間的な立ち居のむすびつき［かわりに一組の恋人が座っていた］で訳されているが、これは［座っていた］から客体が文中に現れていない空間に出現したと考えられる。空間への出現が主体から客体に替わっているが、「空間的な出現のむすびつき」が基本になっていると考えてよいだろう。

2.2.5. カラダ領域のくみあわせ

カラダ領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体がカラダの場合である。本領域のくみあわせも相当数ある。連語論的な観点から、ヒト領域のくみあわせは以下に挙げる2類のむすびつきに大別できる。

①「空間的な到着のむすびつき」からの派生義

「空間的な到着のむすびつき」は、ある空間に主体が到着することである。カラダ領域のくみあわせの一つに、ある種の力によりカラダがある空間に達する現実がある。到着体が主体から客体に替わっているが、ここには到着義が表れている。

(51) 然后将信贴在胸口，闭上双眼，把身子倚在葡萄架上。(『講読』①-8)

それから、手紙を胸におし当て、目を閉じ、体をぶどう棚にもたせかけた。(同上①-13)

(52) 有一次，在他偷看“皇后”时，不知为什么，对方突然抬起头来，用水汪汪的眼睛使劲盯了他一眼，然后才慢慢盖上长睫毛。(『講読』⑥-52～53)

ある時、こっそり「皇后」を見ていたとき、どういうわけか分からないが、相手はいきなり頭をもたげ（顔をあげ：筆者訳）、ぱっちりした目でじっと彼を見つめてから、ゆっくりとまつ毛を伏せた。(同上⑥-62)

例（51）（52）の連語“闭上双眼”“盖上长睫毛”は、客体が何らかの力により、ある点に達している［目を閉じ］［睫毛を伏せた］と考えられるので、「空間的な着点のむすびつき」が基本になっていると考えてよいだろう。

② 「空間的な出現のむすびつき」を意味する連語

「空間的な出現のむすびつき」は、ある空間に主体が出現することである。ヒト領域のくみあわせの一つにヒトの力により、ヒトがある空間に出現する現実がある。出現体が主体から客体に替わっているが、ここには出現義が表れている。

(53) 不一会，那封奇怪的表扬信又爬上姑娘的心，两天来的顾客又在眼前过了一遍。(『講読』⑥-26～27)

しばらくすると、あの奇怪な表彰の手紙がまた娘の心にはいあがってきた。ここ二日来のお客さんが一人一人眼前にあらわれる。(同上⑥-33)

(54) 敏喃喃，一种说不清是酸是甜的滋味一下子涌上了她的心头……(『人民』95-4-99)

と敏はつぶやいた。なにか切ないような、甘いような気持ちが、彼女の心に急にこみあげてきた。(同上)

例 (53) (54) の連語“爬上姑娘的心”“涌上了她的心头”は［娘の心にはい上がってきた］［彼女の心に急にこみあげてきた］と訳されている。これは主体がある空間に出現したと考えられる。空間への主体の出現は、空間領域における「空間的な出現のむすびつき」が基本になっていると考えてよいだろう。なお、例 (53) の日本語訳［娘の心にはい上がってきた］は［娘の頭に浮かんできた］と訳す方が適訳となるであろう。

2.2.6. 組織領域のくみあわせ

組織領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体が組織の場合である。本領域のくみあわせも相当数ある。連語論的な観点から、組織領域のくみあわせは、以下に挙げる2類のむすびつきに大別できる。

① 「社会的な移りのむすびつき」を意味する連語

「社会的な移りのむすびつき」は、ある組織に主体が移ることである。組織領域のくみあわせの一つに、主体がある組織としての空間に移る現実がある。ここにはある空間に移る主体の移り義が表れている。

(55) 茶仙住上富丽豪华的小洋楼，吃的山珍海味，却不觉愉悦，反觉筋骨乏力，便提早躺在软棉棉的席梦思床上休息了。(『人民』94-3-93)

家は西洋式の豪華な建物。食事は山海の珍味。でも茶仙は、楽しいどころか、体がだるくなり、ふんわりした高級ベッドのふとんの中に早々ともぐりこみ、休んでしまった。(94-3-92)

(56) 我无数次梦见我住上带阳台的房子，在梦里我久久地站在阳台上，看天上飘过片片白云，看地上走过芸芸众生。(『人民』97-8-87)

私は幾度も、ベランダのあるアパートに入居した夢をみた。夢の中で、私はじっとベランダに立って流れる雲を眺めたり、目の下を行き交う大勢の人を見下ろしていた。(同上、97-8-86)

(57) 直到去年调动工作，住室略有改善，住上了单元房。(『人民』88-2-98)

去年転職して、ようやく住まいはいくらか良くなった。アパートに住めるようになったのである。(同上)

例（55）（56）（57）の連語“住上富丽豪华的小洋楼”“住上带阳台的房子”“住上了单元房”は［西洋式の豪華な建物］［ベランダのあるアパートに入居した］［アパートに住めるようになった］と訳されている。これは主体がある空間に移ったと考えられるので、「空間的な移りのむすびつき」が基本と考えられるだろう。

②「社会的な到着のむすびつき」を意味する連語

「社会的な到着のむすびつき」は、ある組織に主体が到着することである。組織領域のくみあわせの一つに、主体がある組織に達する現実がある。ここには到着義が表れている。

（58）她边扫，边想着：孩子考上了大学，走上了工作岗位，发明了最好的机器……（『講読』④-113）
彼女は掃除しながら、心の中で考えていた――子供たちが大学へ入る、それから仕事につく、すばらしい機械を発明する……。（同上④-118）

（59）一年之后，吕月考上了医科大学。（『人民』94-10-97）
一年後、呂月は医科大学に合格した。（同上、94-10-96）

（60）吕月没毕业就考上了美国的一所大学，当然还是学医。（『人民』94-10-97）
呂月は、大学卒業前にアメリカのさる大学に受かった。もちろん専攻は医学だ。（同上）

例（58）（59）（60）の連語“考上了大学”“走上了工作岗位”“考上了医科大学”“考上了美国的一所大学”は［大学へ入る］［仕事につく］［医科大学に合格した］［アメリカのさる大学に受かった］と訳されている。これは主体がある領域に達したと考えられるので、「空間的な到着のむすびつき」が基本になっていると看做せるだろう。

2.2.7. 心力領域のくみあわせ

心力領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体が心力（理性・感情・感覚など）の場合である。本領域のくみあわせは非常に少ない。連語論的な観点から、心力領域のくみあわせは以下の「空間的な移動のむすびつき」から派生するむすびつきだけである。

「空間的な移動のむすびつき」は、ある場所で主体が移動することである。心力領域のくみあわせの一つに、客体が移動する現実がある。これを「心力的な移動のむすびつき」と言う。移動体が主体から客体に替わっているが、ここには移動義が表れている。

（61）小号哽噎了一下，又接上气，架子鼓神经质地跳跃着，像疯子操纵的气锤。（『人民』89-12-101）
トランペットがちょっとつかえたが、また怒ったように調子を上げていく。ドラムはヒステリックに跳ね回り、狂人がスチームハンマーを操っているみたいだ。（同上）

例（61）の連語“接上气”は［怒ったように調子を上げていく］と訳されている。これは客体の移動と考えられる。移動体が主体から客体に替わっているが、「空間的な移動のむすびつき」が基本になっていると考えてよいだろう。

2.2.8. 自然力領域のくみあわせ

自然力領域のくみあわせとは、“动作（移动）动词＋上＋客体”の客体が、自然力（水・雪・火・風・雷・音など）の場合である。本領域のくみあわせは非常に少ない。連語論的な観点から、自然力領域のくみあわせは「空間的な進入のむすびつき」から派生するむすびつきと考えられるだろう。

「空間的な進入のむすびつき」は、ある空間に主体が進入することである。このむすびつきは、ある主体がある空間に進入することを表すので、“上路”［旅に出る／出立する］のように開始義[13]が派生する。運動する自然力が主体から客体に替わっているが、ここには開始義が表れている。この連語を「自然力的進入のむすびつき」と言う。

(62) 外边飘上雪花了。(『八百詞』p.303)

外には雪が舞い始めた。(同上)

例（62）の“外边”は空間詞である。連語“飘上雪花”は［雪が舞い始めた］と訳されている。これは自然力が主体から客体に替わっているが、「空間的な進入のむすびつき」が基本になり開始義を表していると考えてよいだろう。

3. おわりに

空間領域のくみあわせ「“上”＋客体（空間詞）」は連語論的な意味と構造的なタイプとにより、6類の空間的なむすびつき（移動・移り・着点・進入・出現・うつしかえ）を作る。6類のむすびつきの基本は、位置移動の動詞“上”が「下から上への移動」を表すので、移動義［あがる］が基本であり、他の5意義は派生である。

「“上”＋客体（空間詞）」で作るくみあわせの前に有様（移動）の動詞が加わると、連語論的な観点から「有様（移動の）動詞＋“上”＋客体（空間詞）」は12類のむすびつき（空間：移動・着点・進入・出現・立ち居・付着・〈ひと〉のうつしかえ・〈もの〉のうつしかえ・とりつけ。社会：移動・移り・進入）が作れる。ここには有様（移動）の動詞の機能が反映されている。

領域別のくみあわせをみると、筆者の調査によれば、空間領域から他の8領域（時間・モノ・コト・ヒト・カラダ・組織・心力・自然力）への転換が成立している。その基本には「“上”＋空間詞」で作る6類のむすびつき（移動義・着点義・進入義・移り義・出現義）がある。これらのむすびつきが基本となり、有様（移動の）動詞を加えることにより、他領域のくみあわせにも使われることになっている、と言ってもよいであろう。うつしかえ義だけはやや複雑なので、他領域の転換には使われないようである。

言語資料と略称

1.『人民中国』ショートショート　人民中国雑誌社　1988～1997（『人民』）
2.『中国語学講読シリーズ』①～⑥　柯森耀訳　北京外文出版社（『講読』）
3.『中日対訳コーパス（第一版）北京日本研究センター　2003（『コーパス』）

[13] 丸尾誠（2014：1）では、言語事実から例（58）を開始義の用法として挙げ、この用法から「離脱」が派生するとして、筆者が「とりはずしのむすびつき」として挙げる例（33）の“你没事干了、怎么揭上墙上的广告了？”や「再帰的なとりはずしのむすびつき」として挙げる例（34）の“刚走了一会儿他就热得脱上衣服了。”の2例も挙げている。

参考文献

日本語の文献

1. 荒川清秀（1992）「日本語名詞のトコロ性—中国語との関連で—」『日本語と中国語の対照研究論文集（上）』くろしお出版
2. 荒川清秀（2003）『一歩進んだ中国語文法』大修館書店
3. 王軼群（2009）『空間表現の日中対照研究』くろしお出版
4. 朱德熙著 杉村博文・木村英樹訳（1995）『文法講義』白帝社
5. 杉村博文（1994）『中国語文法教室』大修館書店
6. 高橋弥守彦（2003）「位置移動動詞“进、出”と空間語との関係について」『大東文化大学外国語学研究』第4号
7. ————（2007）「連語論から見る『“上”＋空間名詞』について」『語学教育研究論叢』第24号　大東文化大学語学教育研究所
8. ————（2008a）「“动词＋上来／去”と空間詞の関係について」『語学教育研究論叢』第25号　大東文化大学語学教育研究所
9. ————（2008b）「“上”と客体との関係について」『大東文化大学外国語学研究』第9号
10. ————（2008c）「動詞＋“上”と空間詞との関係について」『大東文化大学紀要』第46号〈人文科学〉
11. ————（2008d）「連語論から見る“上”＋空間詞について」『日本语言文化研究 日本学框架与国际化视觉』张威主编 清华大学出版社
12. ————（2009a）『格付き空間詞と〈ひと〉の動作を表す動詞との関係—日中対照関係を視野に入れて—』大東文化大学語学教育研究所
13. ————（2009b）「“动词＋上＋空间词＋来／去”の“上”と空間詞との関係について」《汉日理论语言学研究》学苑出版社
14. ————（2013）『中日対照言語学概論—文法編—』日本語文法研究会
15. ————（2015）「日中対照関係から見る受身文の受け手と仕手との関係」『語学教育論叢』第32号
16. 田中茂範・松本曜（1997）『空間と移動の表現』研究社出版
17. 朴貞姫（2005）『日中朝3言語の仕組み—空間表現の対照研究—』振学出版
18. 方美麗（2002）「〈行く先のむすびつき〉～日中対照研究～」『外国語教育論集』24号　筑波大学外国語センター
19. 方美麗（2002）「『連語論』〈『移動動詞』と『空間名詞』との関係〉—中国語の視点から—」『日本語科学』11　国立国語研究所
20. 方美麗（2003）「〈方向のむすびつき〉—日中対照分析—」『外国語教育論集』25号　筑波大学外国語センター
21. 丸尾誠（2005）『現代中国語の空間表現に関する研究』白帝社

22. 丸尾誠（2014）『現代中国語方向補語の研究』白帝社
23. 李臨定著 宮田一郎訳（1993）『中国語文法概論』光生館
24. 盧濤（2000）『中国語における「空間動詞」の文法化研究』白帝社
25. 呂叔湘主編　牛島徳次監訳　菱沼透訳（1992）『中国語用例辞典』東方書店（『八百詞』）
26. 吕春燕（2012）《中日移动动词的认知语义学对照研究》大连理工大学出版社

中国語の文献
1. 齐沪扬（2014）《现代汉语现实空间的认知研究》商务印书馆
2. 宋文辉（2007）《现代汉语动结式的认知研究》北京大学出版社
3. 储泽祥（2010）《汉语空间短语研究》北京大学出版社
4. 杨德峰（2004）《汉语的结构和句子研究》教育科学出版社
5. 李燕（2012）《现代汉语趋向补语范畴研究》南开大学出版社
6. 梁银峰（2007）《汉语趋向动词的语法化》学林出版社
7. 刘月华（1998）《趋向补语通释》北京语言文化大学出版社

（2015 年 9 月 29 日受理）